議会報告会結果報告

開催日時	令和元年(2019年) 5月 18日(土)14 時~16 時					
開催場所	鎌倉市役所本庁舎2階 議会全員協議会室					
出席議員	班長 伊藤 倫		育邦			
	司会 河村 玚		X 磨			
	千 一		くりはら えりこ	志田 一宏	長嶋 竜弘	
	武野 裕子		西岡 幸子	森 功一	納所 輝次	
	髙橋 浩司		山田 直人	前川 綾子	河村 琢磨	
	伊藤 倫邦		保坂 令子	大石 和久		
参加人数	18名					
実施概要	・平成31年2月定例会の報告(各常任委員会、一般会計予算等審査特別委員会) ・意見聴取会(テーマ『共生社会について〜多様な生き方を認め合える社会について〜』)					
	【委員長報告への質疑】					
内容	Q1. 深沢地区のまちづくり方針実現化検討委員会の検討内容に、共生社会実現の文言が					
	書かれていないが、共生社会実現の観点は入っていないのか?					
	A1. 委員長報告には記載していないが、検討内容には入っている。					
	Q 2. 生ごみについて「減量化」ではなく「減容化」と説明があったが、そのような言葉					
	があるのか?					
	A 2. 燃やさずに分解するので「減容化」という言葉を使っている。					
	Q3. テレワークについての研究会が立ち上がったがどのようなものか?					
	また報告を「聞きおく」とはどういうことか?					
	A 3. 市内の事業所や個人の方などによる研究会を立ち上げ、市は事務局的な役割を果た					
	す。これについて委員会として異論はなかったが、市役所の仕事(特に管理職)にテ					
	レワークを導入するということについて、各委員から様々な意見が出されたため、「そ					
	の報告を了承する」のではなく「聞きおく」とした。					
	Q4. 観光厚生常任委員会はなぜ「観光」と「厚生」が一緒なのか?福祉と観光、健康と					
	観光を結びつけられないか?					
	A4. 観光厚生常任委員会は、市民活動と経済産業活動も所管している。鎌倉市ではその					
	代表が観光であるため、観光という言葉を冠していると認識している。観光などの産					
	業と、厚生をどのように関係させていくか考える必要がある。					
	Q 5. 部活動	めについて	↑、週休日を設けること	けることが試合などでマイナスとならないか?		
	A 5. 部活動によっては顧問や指導者によって必勝主義や、楽しむため、など取組み方が					
	様々である。教育活動の一環であることから、早期の怪我等も問題である。文化庁・					
	スポー	-ツ庁の方	針の改訂にならい、近隣市と情報交換しながら子ども達にとってよい			

部活動の在り方を検証し必要な改善を図っていきたいという流れである。

- Q6. 共生条例策定に参加したかったが、障がい者などの意見を聞いたのか? 点字版は作成されるのか?
- A 6. 市からは、パブリックコメントを実施したり、障がいのある方など様々な方のご意見を伺ったりしたと聞いている。点字版は作成する予定と聞いている。

【意見聴取会での意見】

共生社会について

- ・深沢の整備をはじめ今後の鎌倉市インフラ整備については共生の視点を取り入れるべき。
- ・市民一人ひとりの共生意識の醸成が重要であり、意識をどのように変えるかが課題
- ・例えば車いすでもバス等で市内を自由に移動出来なければ本当の意味での共生社会に はならないのではないか。
- ・共生については市がもっと積極的に市民の声を聴く努力が必要では。
- ・多様性を認め合える社会にしなければならない。多様な層にどのようにアプローチしていくかが今後の課題。

< 共生条例について>

- ・共生条例について内容の周知を求める。視覚に障害があるため点訳等で内容を具体的 に知りたかった。
- ・民間勤めで、大船駅頭でチラシを受けとった。予約必要なく、仕事が休めたので来た。
- ・共生社会って・みんな仲良く・カバー力・意識力・共にお互い認め合う。
- ・エスカレーター左側だけでなく、両側にとまることが最近認知されてきた。障害者に は右手しかつかまれない人もいる。そういったことが広まってほしい。
- ・何を誰が「カバー」していけばできるかを考える。それが共生社会だ。
- ・自助・共助・(ご) 近助・公助・普段コミニケーションがとれない場合、いざという 時どう対応する。
- ・支援の仕方が伝わっていない。
- ・共生社会の第一歩は、声を出すこと。
- ・もっと広報してほしい。情報が入ってこない。情報を取ろうとしていない人にどのよ うに情報をとどけるか。
- ・学校教育、先生の総合学習予算少ないので、先生が生徒に説くのではなく、当事者が 説いたほうが良い。親が関心を持つためにも、子供達が親に話すような内容を、先生 も勉強してほしい。
- ・防災訓練で、話を聞くだけでなく、年寄りや、障害者の避難を実際にやったほうが、 良い。
- ・鎌倉市の障害者雇用達成は素晴らしい。
- ・民間企業でも、障害者を雇用することによって、意識が変わった。

イニシアティブをとる市職員には、まじめにやってほしい。来庁した際に、なんでも すぐに障害福祉課を案内する。その意識を変えるべきだ。

<あなたにとって共生社会とは>

- ・共生社会とは、いろいろな多様な意見を尊重することができる社会である。
- ・共生社会とは、性別・国籍・生き方・働き方・結婚観・死生観・哲学・宗教も含め、 皆がいろいろな人の考え方や多様性を認め、受け入れることだと思う。
- ・共生社会とは、少子高齢化の中で多様な価値観を受け入れる社会を言う。
- ・共生社会とは、神羅万象すべての物の「いのち」大切にすること。
- ・共生社会とは、自分を知り、他者を理解し助け合い楽しく生きること。
- ・共生社会とは、あらゆるものにある価値、その多様な価値が存在する社会で生きること。
- ・共生社会については若い人の中でなじみ深く、ジェンダーの問題について話し合う事 もあり親しみはある。

< 共生社会の実現に向けて自分ができることは>

- ・成熟化社会で認め合っていくこと。
- ・共感と協活、という共生社会を実現するコンセプトをはっきりとさせていくこと。
- ・共生社会への方向性には賛成であり、その課題・問題などボケないようにしていくこ と。
- ・いろいろな考えの人がいることをクローズアップさせていくこと。
- ・最低限の教育というものは必要だと思う。義務教育が受けられない(学校に行きたくない)など、最低限のことに代わる手段を設け【生きる】を守ること。

市議会に期待することは

- ・共生社会の実現には、行政・市議会が市民の声を聞くことが大事。市民の声を聞かず して共生社会の実現はできない。
- ・仕事をするうえで、**多種多様な選択肢があることは共生社会を実現するためには必要である**。
- ・行政は共生条例を認知させることが重要であり、会社や様々な施設に対して多様性の 周知を図ることが大切である。
- ・(市民投票条例の設定可否の論議から)多様な声・意見を聞き、それを認識すること は、共生条例設定の一貫性をはかるためにも重要である。
- ・今後、共生社会の実現のためには計画が必要である。行政の計画はふわっとしたものなので、抽象的な事でなく、問題点の解析をするためにも数値目標を設定すべきである。
- ・バックキャスチングはあるべき姿を描くためには必要。しかし、フォアキャスチングがないが故に数値が出てこないので両方を活用することが必要である。
- ・現状分析をきちんとして、他市との比較もすべきである。

市政について

< 障がい者の通院に伴う経費負担について>

・市外の病院に行く場合、片道 2 万円かかる。病院内で介助されるので 30 分で 1,500 円、合計 4 万 9000 円かかる。介護保険の認定を受けると 2 万 2000 円。介護保険を使うと訪問看護を全部やって、移動は単位計算が出来ないので私は 800 円で済むので 4~5 時間できる。ケアマネも、市役所も 4 万円位かかるという案内をする。

<車いすの動線の確保について>

・高齢者と障がい者は同様の立ち位置にいる。電動車いすでの外出が困難。20~30 kg で重たいのでタクシーの乗車を断られる。介護タクシーですら車を傷つけてしまうと かでタクシーの乗車を断られる。自分の講師活動の時は、夫は仕事を休まざるを得ない。

尊厳とは、今まで通りの生活をする事。しかしそれが自分にはできない。お金のある 人はできているのに。友達に頼ることになるので迷惑かけられず、結局「自助」にな る。

- ・足腰が弱くなったら、高齢者も同じ。移動の手段がないと、高齢者は家の中に閉じこもってしまい、認知症の原因にもなる。老々介護、免許証返納を考えると、やはり障がい者・高齢者の動線の確保が大事で、それが共生ではないか。高齢化率が40%近くなっている。自治体にとっては一時的には莫大な資金になるとしても、今後この人の方が多くなる。
- ・梶原のミニバスは、帰りは家の近くで止めてくれる。稲村地区では400円で主婦がさわやかセンターに行ってくれる。大船地区は、コーナンや湘南鎌倉病院へバスが出ている。業者と個人の win 、win だけでなく、そこに行政が入ってもいいのではないか。一日3本でもいいから。車いすでバスに乗っている方を見たことがあるか。私は乗れない。みんなに迷惑がられる。朝昼夕の3本でいいから車いすで乗れるバスを出してほしい。高齢者の閉じこもりもなくなるのではないか。このままだと要介護者を作っている。

<視覚障がい者としての現状について>

- ・視覚障がい者として現状ではあまり不自由を感じる現場は少ないが、点字ブロックの 整備などバリアフリーのあり方については、次の世代のためにも今のうちにきちんと しておかなければならない。
- ・障がい者とのふれあい方や声かけなどを学べる場があるとよい。

<他者への思いについて>

・市内でフェアレートの店をやっている。今着ている服がどうしてつくられているか、 一日15時間働きトイレも3回しか行かれない遠い国の子供が労働させられて作られている。話を聞けば胸が痛くなるようなことだけれど、こうしたリアルな現実が届いていない。こういう現実は教育の場で知らせる必要がある。皆さん共生の気持ちが あるとは思うが、どうしていいか分からない。例えば息子の林間学校で、学校からアレルギーの質問があった。鎌倉市が用意する食材としてコンビニのような食べ物を支給される。なるべく安全なものをという立場になぜ立ってくれないのかと思った。いろんなことを判断する時にみんながシエアできる大切にすべきことがあると思う。

・休みなく元気で働いていたから、不自由になるまで分からなかった。この体になって、 今までの仕事は断られた。この立場で見えるようになって、少しでも分かってもらえ たら。

<魅力あるまちにするために>

- ・鎌倉の魅力は「古都」。外部の方がいう魅力で、多様性が担保されているように見えるのは、皆さんの努力でほかの都市から見るとパラダイスに見える。しかし、山の上の方にまで家を建てて、ご高齢になった時、どうやってご自分が移動するのか。廃屋になった時も含め、かなりお金がかかること。個人の自由と経費のバランスは、今後そじょうに乗ってくると思う。今まで市民の希望は通ってきたとは思うが、経費を負担するのも市民。30年ほど働き、公共施設を使う間がなかったが、税は天引き。市長と対立構造に持ってくが、胸襟をひらきあってもいいのでは。
- ・福岡は起業しやすいまち。理由は人が集まっているから。そして専門家に相談できる 環境がある。Wi-Fiが少ない。

<児童虐待の問題について>

・昨今、大きな問題となっている児童虐待の問題について、市がどのように取り組んでいるのかわからない。担当部署を超えての連携がどうなっているのかわからない。市民に虐待問題についての意識を持ってもらうためにも市の取り組みの周知が必要。

<ごみ処理施設整備関係について>

・今年度の予算にごみ処理施設整備関係の予算が計上されなかった理由をしりたい。

<行政の取り組みについて>

・行政の取り組みについては市民の意見を聞かずにものごとが決められているように思えてならない。ホームページに記載されてあるといわれても、パソコンなどを使えない市民は置き去りにされている。

<介護や福祉の課題について>

・介護や福祉の課題など自分たちの生活は地域で守るしかないと、意識を変える必要がある。生活上の課題などについて議員に伝える手段があるとよい。

<年金の相談の窓口について>

• 2~3 年前に年金の相談で市役所を訪れたときには市民側が委縮するような窓口の対 様があった。最近は部署によっては親切な対応だったりする。窓口の対応のあり方を 改善してほしい。共生窓口のあり方を期待する。

<個人情報保護のあり方について>

・個人情報のあり方によっては視覚障がい者間の連携が取りにくく、情報の共有が課題 になっている。行政が障がい者間の活動をもっとフォローしてもらえるとよい。

<その他>

- ・テレワークは必要がない。時間をかけて通勤している者ならともかく、市役所職員に は必要がない。
- ・テレワークは、誰と付き合い、どう生きるかの問題に関係しているのではないか。